



2019年4月23日「奥浅草だより」第23号

## 土手通りの老舗3傑

土手通りの吉原大門（よしわらおおもん）付近に、昔懐かしい飲食店が何軒も並んでいます。そのうちの隣接する3軒は、何と1945年の東京大空襲であたりが焼け野原になったとき生き残った奇跡の店なのです。三ノ輪寄りから、桜肉の中江、天ぷらの伊勢屋、大村そば店が並んでいます。3軒とも1923年の関東大震災では全焼し、その後再建したものですからやがて築100年になります。

**桜なべ中江** 桜肉というのはいうまでもなく馬肉のことです。その昔は、吉原へ遊びに来た御仁が、遊ぶ金欲しさに馬を手放したとか。この並びには桜肉屋が軒を連ねていたそうです。中江は明治時代1905年の開業で、馬刺やにぎりのほか、桜鍋が定評。その大正建築は国の有形文化財。味はもちろん、室内には谷文晁の馬の絵4点のほか、美術品・骨董品があります。さらに吉原遊廓跡の仲の町通りには、「金村」という茶楼を持っています。

**土手の伊勢屋** 中江の東隣が伊勢屋です。何ととっても大振りの江戸風天井が有名で、さらに食べるために並び行列が半端ではありません。11時開店ですが10時半には屋外で行列。前の方は丸椅子があり、雨とか炎天には傘を貸してくれます。夜は営業いたしません。こちら開業は1889年で、震災後に建て直した現在の建物は有形文化財。

**大村そば店** 細い道を隔てて隣が大村そば店。現在の建物は昭和初期のもの。それゆえ有形文化財のお話もあったそうですが、それを潔しとしない店主が断ったそうです。メニューは普通の日本そばが一通りありますが、とくに人気なのが中華そばです。昔懐かしいラーメンです。3世代家族とねこ1匹が店を支えています。隣とは対照的に空いていますが、白いのれんのかかっている時間数は長く、道行く人に安心感を与えます。

~~~~~

この奥浅草だよりは『奥浅草 地図から消えた吉原と山谷』の発行後話題を拾って不定期に発行しております。

サノックスのホームページでもご覧いただけます。 <http://www.sanox.co.jp>

佐野陽子・江原晴郎・森下恒子